

受験番号	
------	--

日本赤十字秋田看護大学大学院
看護学研究科看護学専攻修士課程

令和6年度 Ⅲ期 入学試験問題

〔科目試験〕
(高度実践看護学分野)
[がん看護]

【注意事項】

- 1 試験時間は60分です。
- 2 試験問題は、表紙を含めて全部で4枚あります。
- 3 受験番号は、この表紙に記載してください。
- 4 質問があるときは、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 5 試験問題を持ち帰ってはいけません。

- 1) WHO ガイドライン「がん疼痛マネジメントの基本指針」に示された鎮痛薬の投与の基本原則を4項目書いてください。

①経口的に *可能な限り経口投与
②時間を決めて *適切な時間間隔で投与
③患者ごとに *痛みの種類や有害事象により最適な投与量は患者ごとに評価
④そのうえで細かい配慮を *患者の生活に応じた投与時間など

- 2) WHO ガイドライン「がん疼痛マネジメントの基本指針」に示されたがん疼痛マネジメントのための薬剤分類に対応する薬剤種類を書いてください。

*鎮痛補助薬は4種類書いてください。

薬剤分類	薬剤種類
非オピオイド鎮痛薬 ①②は順不同	①アセトアミノフェン
	②非ステロイド性抗炎症薬 *NSAIDs でも正解
オピオイド ③④は順不同	③弱オピオイド
	④強オピオイド
鎮痛補助薬 ⑤～⑧は順不同	⑤コルチコステロイド *ステロイドでも正解
	⑥抗うつ薬
	⑦抗けいれん薬 *筋弛緩薬も正解
	⑧ビスホスホネート

- 3) 痛みの感じ方に影響を与える因子について、それぞれ4つ書いてください。

*回答欄のいずれかの言葉が記載されていれば正解とする。

痛みの感じ方を増強する因子 ①～④は順不同	痛みの感じ方を軽減する因子 ⑤～⑧は順不同
怒り、不安、倦怠、抑うつ、不快感 深い悲しみ、不眠、疲労 症状についての理解不足、 孤独感、社会的地位の喪失	受容、不安の減退、緊張感の緩和、 創造的な活動、気分の高揚、睡眠 他の症状の緩和、感情の発散、説明 人とのふれあい、カウンセリング

- 4) 突出痛がある患者の症状マネジメントについて、突出痛の持続時間と薬効のミスマッチを回避する方略を中心に、①予想される突出痛、②予想されない突出痛に対するレスキュー・ドーズ投与時の看護援助（アセスメントの視点と介入）について、それぞれ述べてください。（400字以内）

- ①予想される突出痛に対しては、過重負荷や生活行動や看護／医療処置などの原因と発現時間をアセスメントし、誘発する刺激を避ける、刺激の前にレスキュー薬の投与を行う。
- ②予測できない突出痛に対しては、突出痛の出現部位・特徴・随伴症状から突出痛の種類をアセスメントし、迅速にレスキュー・ドーズの投与を行う。原則的には、定期投与している鎮痛薬と同じ種類の速放製剤を選択する。
- ③鎮痛薬の種類による吸収速度をアセスメントし、吸収を早める投与経路を選択する。
- ④レスキュー薬投与後の痛みの緩和をアセスメント（効果判定）し、臨時追加投与量

が適切か評価する。また、必要時は追加投与を行う。

- ⑤突出痛の出現部位・特徴・随伴症状から突出痛の種類をアセスメントし、臨時追加投与した鎮痛薬の種類や投与方法が適切か評価する。

根拠資料

1. トワイクロス先生の緩和ケア. (監訳：武田文和／的場元弘). 医学書院. 2018 p82
2. WHO ガイドライン 成人・青年における薬物療法・放射線治療によるがん疼痛マネジメント.
(監訳：木澤義之／塩川満／鈴木勉). 金原出版. 2021 p18-21
3. トワイクロス先生の緩和ケア処方薬 薬効・薬理と薬の使い方 第2版. (監訳：武田文和、鈴木勉). 医学書院. 2017 p309-312
4. 愛媛大学医学部附属病院 がん性疼痛治療に用いられるオピオイド鎮痛薬一覧 (当院採用薬)
<https://www.hsp.ehime-u.ac.jp/medicine/wp-content/uploads/DINEWS20180701.pdf>